

雨の交野界隈の散策

(第85回くらわん会 2003/07/01)

あいにくの梅雨の雨だったが、京阪郡津駅から私部の古い町並みを歩き、「いきいきランド交野」のスタードームへと散策した。雨の中でも歩き好きの元気な人達が62人も集合して来る。

傘を差して免除川沿いの小道を上っていく。黒く生い茂った大島桜の並木、根っこがボコボコと露出した散歩道、かつての荒れ川であった免除川も護岸工事で静まり返っている。雨に濡れそぼる紫陽花の花に季節の風物を感じながら、雨の散歩もまた楽しい。

百々(どど)川を渡り細い路地が入り組んだ私部の町中に入ってきた。このあたりは昔からの民家が建ち並び、歴史を感じさせる。ふと立ち止まると、大きな銀杏の木が門前に聳える無量光寺、想善寺、光通寺と寺の多いところでもある。傘をさして二人並ぶともう一杯になってしまう中町の細い道を歩いていくと、前方に代官屋敷が見えてきた。

北田家の代官屋敷として有名なこの建物は、元和5年(1619年)、徳川幕府の代官所の面影を残した全国でも珍しいものである。1200坪もある広大な敷地の中に豪壮な構えの建物が建っている。塀に囲まれて中をうかがうことが出来ないが、日本一の長さを誇る長屋門を見るだけでもこの屋敷の中をあれこれ想像することができる。長屋門だけでも僕らの家の何軒分だろうかと思ったりする庶民を尻目に、邸内はひっそりと静まり返っている。

代官屋敷からほど近い所に住吉神社が建っている。広い境内に入ってくると一同ほっとした気分になる。創建年代は定かでないが、地元の崇敬を集めている古い社である。奈良春日神社の旧社殿を譲り受けたと言う、真っ赤に塗られた本殿。その前に茅で作られた大きな輪が備えられている。茅の輪くぐりという昔からの伝統行事のためのもので、ちょうど6月の晦日にこの輪を3回くぐると不浄罪穢が祓い清められると言う。月遅れであるがあやかりうと、今日の会の人達も茅の輪を何回もくぐっている。

境内の私部会館の裏に「きゅうせん藪」があり、薄暗い中に幾つもの石塔と石仏が並んでいる。右奥

合 雨の郡津駅前J A会館に六十二名が集



く 府道18号出屋敷・寝屋川線の高架下を
ぐ くり京阪交野線を越える



工 かつての荒れ川であった免除川も護岸
事 事で静まり返っている



黒く生い茂った大島桜の並木、根っこ
がボコボコと露出した免除川遊歩道





雨に濡れそぼる紫陽花の花に季節の風物を感じながら、雨の散歩もまた楽しい



大きな銀杏の木が門前に聳える無量光寺（浄土真宗本願寺派）



修元山想善寺は天正に堂を建てた、この土地の念仏行者「惣善」に由来、地藏信仰の寺としても有名



北田家の代官屋敷は元和5年（1619年）建立、徳川幕府の代官所の面影を残した珍しいもの

に空禅（きゅうせん）和尚のお墓がある。元禄時代、境内に真言律宗、つまり宮寺の現光寺があり、空禅和尚はその中興の祖といわれている。

きゅうせん藪に沿って私部北川沿いを行くと、前方に「いきいきランド交野スタードーム」の丸い屋根が見えてきた。本来ならここから七夕祭りで有名な機物神社から倉治公園、神宮寺のぶどう園まで足を伸ばすことになっていたが、今日はここで解散することになった。体育館はちょうど休館日で、一同は軒下を借りて、まだ少しお昼には早いですが弁当を食べたり、また一目散に家に帰っていく人たちもいる。

それでも今日はしっとりと雨に濡れながら、交野界隈の昔からの路地を歩き、雨もまた楽しいものである。

石田富雄記

二人並ぶともう一杯になってしまいう町の細い道を歩いていくと、前方に代官屋敷が見えてきた



天保十四年（1843）に建てられた長屋門は、民家としては最大級の長さ五十六米





ご祭神は住吉大明神、1755年造立、
村内安全五穀豊穰を祈る
私部南の小高い丘の谷から出る北川と
南川の水は、村人を喜びと悲しみに二
分、そこで小高い丘の老松に礼拝した
のが住吉神社の起源という



鳥居をくぐって右手に宮池がありお堂
が二つ並んでいた
茅の輪くぐりは、六月の晦日にこの輪
を三回くぐると不浄罪穢が祓い清めら
れると言う



右奥の墓石が元禄時代の真言律宗、宮
寺、現光寺のきゆうせん和尚のもの
私部会館の裏に「きゆうせん藪」が
あり、薄暗い中に幾つもの石塔と石
仏が並んでいる



本日の行程はスタードームで解散、あ
いにくの休館日だがここで昼食を摂る
人も
スタードームはもう目の前、雨の散歩
も本日はここまで





<行程>

京阪郡津駅前 JA ⇒免除川沿い⇒私部6丁目⇒無量光寺⇒代官屋敷⇒住吉神社⇒きゆうせん敷⇒いきいきランド交野「スタードーム」(昼食解散)⇒JR 河内磐船駅 約5km
 2003年07月01日(火) 第85回例会 62名参加